



LE CHEMIN D'HERMÈS

エルメスの歴史を描いたあのマンガが増補されて登場！
新版「エルメスの道」2021年3月10日 出版のお知らせ

1997年に出版されたマンガ「エルメスの道」に、その後のストーリーを加えて1冊にまとめた新版「エルメスの道」(竹宮恵子著・中央公論新社刊)が2021年3月10日に出版されます。初版発表から24年、満を持して漫画家の竹宮恵子氏が再びペンをふるい、旧版の物語に続く直近20余年のエルメスの歩みについて、新たに63ページを描き下ろしました。

エルメスの企画・発案のもと「エルメスの道」が出版されたのは24年前。1837年に馬具工房として創業したエルメスの160年余りの歴史を詳細に物語るマンガとして反響を呼びました。それまでエルメスは社史を刊行しておらず、実質的にこのマンガが世界で初めて、エルメスの通史を伝える出版物になったのです。

きっかけは、しばしば来日し、日本文化に感銘を受けていた当時の社長ジャン＝ルイ・デュマが、日本のマンガという表現方法に注目し、このユニークなメディアを使ってエルメスの歴史や価値観を広く一般に伝えることを発案したことにありました。そこで白羽の矢が立ったのが、日頃から乗馬をたしなみ、馬体や馬術競技にも知識のある漫画家の竹宮恵子氏でした。竹宮氏は、エルメスが創業以来大切に守り続けている卓越した職人技に感銘を受け、この大仕事に取り組みました。そして今回、新版のための続編ストーリーの執筆依頼に対し、創作意欲を再燃させられただけでなく、全く新たな制作プロセスを試みたいとの意欲に駆られました。それはアシスタントの存在なしに、作品のすべてを竹宮氏自身の手で仕上げるという前例のないチャレンジでした。結果的にコロナ禍でアシスタントを招集する形では、完成に至ることはなかったことでしょう。マンガ制作ソフトやツールを駆使し「一人で描く」ことに挑戦し、緻密な構想と労力を要する続編制作に果敢に挑んだ結果が、今回の作品を完成に導きました。

新版で描かれる3つの出来事

新版ではエルメスの1997年以降の出来事をマンガにするにあたり、3つの大きなトピックに焦点を当てています。1つ目は2001年に完成した《銀座メゾン》をめぐる物語。《銀座メゾン》は、エルメスがフランス国外においてはじめて計画した、エルメスの“家=メゾン”。ガラスブロックが特徴的なこのビルの建設の裏には数々の困難と、それを乗り越える多くの人々の情熱がありました。



《銀座メゾン》



《ソー・エルメス》

